

すみれ 令和4年12月度特別作品

親から子に

すみれ

定年後、古里に山荘を建て、休耕田を耕し、蕎麦を植えた。野菜を作る喜びを知り、色々を野菜を育てた。しかし、突然の病で野菜作りがなくなり、残念に思っていたところ、荒地となっていた畑に子が種を蒔いてくれた。そして、孫が山里の栗拾いを楽しみにし始めた。山荘での素麺流しも、焚火も、雪遊びも恒例になった。田舎を好む子らの一家に山荘を託す事になったことを嬉しく思う。

秋耕の父と子鋤を競ひ振る

鎌を研ぐ若者の手に秋夕映

釣堀の山女魚を焦がす星月夜

萩の花散らし隠るる子らの声

杉落葉子はファイヤーと集めをり

山荘の男二人の松手入

熊笹を刈り隣人と新酒酌む

屁放虫そーと追ひ出す量かな

山荘にござる寝の親子虫すだく

裏山の秋風強き山の家

《作品鑑賞》

ちどり

すみれさんは、突然の病に罹られても以前と同じように俳句を楽しんでおられる。また、山荘の生活を子供らに託し、喜んでおられる。どんな厳しい環境になってもそれを引き受け、自分らしく生きる。私も、すみれさんのようでありたい。

萩の花散らし隠るる子らの声

萩の花を散らしながら、自然の中でかくれんぼをしている子らがほほえましい。

熊笹を刈り隣人と新酒酌む

隣人と男二人で山荘の熊笹を刈り、ござっぱりした山荘で新酒を酌む。さぞ旨いだらう。

裏山の秋風強き山の家

裏山に身に込むほどの秋風が強く吹いている。しかし、山荘の中は、暖かい。